

令和4年度 第4回 昭島市社会教育委員会会議・要点録

開催日時／会場 令和4年7月28日（木）午後7時00分～8時40分 203会議室+Web会議
出席者 谷部議長、松本副議長、小原委員、齋藤委員、指田委員、信國委員、
吉川委員
欠席者 稲垣委員、二ノ宮リム委員、吉村委員
事務局 川崎社会教育係長、来住野社会教育主事

1 開 会

<配付資料>

- 資料1-1 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回役員会・第2回
拡大役員会 次第 他
- 資料1-2 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回役員会・第2回
拡大役員会 要旨書
- 資料1-3 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会 要旨書
- 資料2 小学生国内交流事業についての意見（アンケートまとめ）
- 資料3-1 あきしまの社会教育委員ガイド（案）
- 資料3-2 あきしまの社会教育委員ガイドに関するアンケート回答まとめ
- 資料4 市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議プロジェクトに関する
回答まとめ
- 資料5 建議「対話から地域力を育む社会教育」（案）

- ・昭島市月間行事予定表（8月）
- ・教育・青少年だより エール 2号
- ・あきしま公民館だより No.21
- ・令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2ブロック研修会の
開催について
- ・News Letter No.26
- ・社教情報 No.87（チラシ）

2 報 告

（1）東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回役員会・拡大役員会、第1回理事会について（7/12）（資料1-1、1-2、1-3）

議長 内容については配付資料のとおりだが、特に、12月の交流大会について、第2部の研修会の内容が大変すばらしいのでオンライン参加やライブ配信などを検討してほしいとの要請があった。

(2) 昭島市小学生国内交流事業運営委員会について (7/20) (資料2)

※事務局より資料の説明

アンケートの回答 (資料2) については、青少年係に送付済み

(3) その他

事務局 関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会実行委員会事務局より、現時点では対面での開催を検討しているとお知らせがあった。11月10日、11日の2日間で行われる予定だが、参加希望者について来月の会議で伺うので各委員検討しておいていただきたい。また、令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2ブロック幹事市 (立川市) から研修会の案内が届いているので、スケジュールの確認と調整をお願いしたい。

4 協 議

(1) あきしまの社会教育委員ガイドについて (資料3-1、3-2)

議長 案ができあがったが、レイアウトについて検討が必要かと思う。

委員 生涯学習と社会教育について記されていてよい。

委員 文字数は多いと読みづらくなる。このくらいの程度でちょうどよい。

※特に1ページ目について、修正する

(2) 市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議プロジェクトについて (資料4)

※事務局より資料の説明 今回のあきしま会議で、共有の時間

委員 サロン活動などで多世代交流の場づくりがすでにできている地域もあるので、改めて社会教育委員がそういう場づくりをするとすると、同じようなものにならないようにする必要がある。あきしま会議の参加者が多世代交流の場づくりについて例えば意見を申し合っただけで、結果既存のサロンに似たようなものになってしまう可能性もある。

議長 先日のあきしま会議で、最後に意見を述べられたその意見の内容について再確認したい。

委員 出た課題や、これからこうしていった方がよいというものを持たず、あきしま会議の場で意見を言って終わり、ではなく、将来的につなげていくということだった。あきしま会議そのものがすでに多世代交流の場であるので、さらに交流の場づくりをするより、共通のテーマをいろいろな人たちと考えていくそのような場づくりをしていくことに意味があると思う。何をトピックにすればいろいろな人が集まりやすいのか、興味を持ちやすいのか、あの時に多数決を取ったわけではないのでわからない。ただ、一つのトピック決めてそれをずっと続けなくてもいいのではないかと思う。

委員 情報発信や情報提供とするとわかりやすい。

委員 情報発信や情報提供はこれまでの社会教育委員会でもずっと言い続けているテーマで、市民一人ひとりに届かないし、情報を取りに来たとしてもなかなか情報にたどり着かない現状を何とかしたいと思っているが、どの程度インターネット上に情報を出せるかなど制約がかなりあるのではないかということからなかなか進んでいない。

委員 今回こうしたプロジェクトにすることで、そこで止まっていた部分が動き出すのではないか、行政として取り組みにくいということだと思うが、今回グループを作っても行政の制約を受けてしまうのか、それとも違う形で、市の一部署ではない形で発信ができるものなのか。行政として情報を出すことがネックだったと思うので、今回のプロジェクトで今までとは異なる情報発信ができるのかで違ってくると思われる。集まるのはあきしま会議に付随するものという形だが、活動は自主的なものであれば、市民の方が一般的に、ボランティア的にやっているような情報発信はできる。

委員 社会教育委員以外にあきしま会議の運営を考えるグループがあってもよいのかもしれない。

議長 建議にもかかわるが、タブレットなどの端末をいくつかの自治会などに貸与し、あきしま会議などに参加できるか、それを社会教育委員の方でアシストする形で、格差をなくすために導入部分をやってもよいのではと思う。成功した事例を見せることができれば、他の自治会なども参画するのではないか。70代でもスマホを持ち、日頃使っているので、試しに体験してみる場を2~3団体を対象に設けることを社会教育委員会議のプロジェクトとしてやってもいいのではないか。7回のあきしま会議を経て、これまでもなにか新しい動きを作っていくという話は出ていたが、ただ、問題を共有して提起するだけではだめで、ステップアップするために何をしたらよいかというところへの参加者からの指摘だと捉えている。

委員 あきしま会議に参加した人たちに、実際に集まって話をしようという案が出ていたがそれに参加したいか、どんな内容のことを話したいか（いくつ選んでもよい）、または新たな提案やとりあえず集まってみたいなど、アンケートを取ってみてはどうか。あの場でも出された話が本当にできるのかも含めて聞いてみては。

委員 ここで社会教育委員が決めるというよりも、参加された皆さんが決めた方が自分たちのこととして考えてもらえるので良いのではないか。

※インターネットで回答できるようアンケートフォームを作成する

(3) 建議「対話から地域力を育む社会教育」について

議長 先に数か所文字の修正などを申し上げるが、皆さんからご意見等をお願いしたい。

委員 ICTの活用とコロナ禍で活用するということが混同しないようにしたい。書いてある内容は、この会議で出たことなのでこのままでよい。

委員 第4章について、生涯学習・社会教育の「推進」というところに違和感がある。新型コロナウイルス感染症の影響で何もできない状況が続き、対面で人々が集うことを大切にしてきた社会教育がなくなってしまうのではないかというほどの大きな危機感を覚えたので、逆に「衰退を防ぐために」「絶えさせないため」など、やや消極的な言葉を使うと私たちの感じた危機感が伝わるのではないか。推進というよりは、社会教育はなくしてはいけないものと伝えたい。

議長 「おわりに」の部分について、ご提案をいただきたい。

委員 シニア向けのサロン活動や、子どもたちを対象とした学習サロン活動で感じたことは会うなり話し始める。しゃべらないことがつらいことなのだと感じる。「人は話さずに

はいられない」ということだと思う。普段話すことは意見を言うことではなく、また、私たちが求めているのは対話なので、対話は、自分の頭の中を整理して話すことで一般的なおしゃべりとは全く異なるものだと思う。おしゃべりはとりあえず人に気持ちを聞いてもらいたいというものだが、対話は、より良い結果を出そうとするためのもの。対話の重要性についていれたらどうか。

委員 子どもたちがあきしま会議でしっかりと話をしていたというのは、周りの方々が中学生の話を上手に引き出してくれたからだと思う。先生や保護者以外の大人と話をする機会が大切なのだと改めて感じたところだ。

議長 では、「おわりに」の部分については検討する。またその他のところについてご意見を8月10日までに事務局へお願いしたい。次回の会議でほぼ確定版とし、9月に教育委員会へ提出としたい。以上をもって閉会とする。

次回

8月25日（木）午後7時より 205会議室+Web会議

9月22日（木）時間未定 204会議室